



4~6月は狂犬病予防注射期間!

かわいいだけじゃない!

最近の猫事情って どうなの? 人も動物も住みよいまちへ



ここ数年、全国的に 猫ブームが訪れています

テレビや雑誌で猫グッズや猫カフェ、猫島などが特集され、インターネット上でも、かわいい猫の動画や写真が多数投稿されるなど、私たちが癒してくれています。

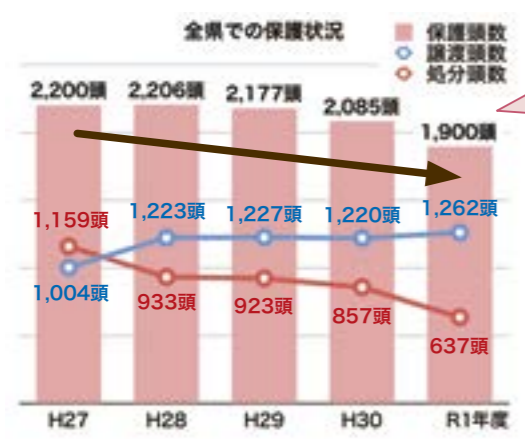
「ネコノミクスの経済効果」(平成28年に関西大学の宮本勝浩名誉教授が発表)では、平成27年の猫ブームの経済効果は2兆3千億円あまりにのぼると言われています。

また、平成29年には、全国犬猫飼育実態調査(一社)ペットフード協会)で、犬の飼育頭数890万頭に対し、猫の飼育頭数952万頭と、平成6年の調査以来初めて猫の飼育頭数が犬の飼育頭数を上回りました。

テレビや雑誌、インターネットでは、猫の可愛い姿などが取り上げられ、見る人を癒していますが、その影には、さまざまな問題もあります。

新潟県の保護猫の現状

新潟県動物愛護センター統計情報によると、猫の保護数は、平成27年度から減少し、令和元年度は



適切な飼い方により
保護が減少

1900頭となりました。これは、正しい飼い方の啓発による効果として、繁殖制限(不妊去勢手術)、室内飼育、迷子札の装着などの意識が向上した結果だと思われます。また、全国的に猫の譲渡を増やす取り組みに力を入れていることもあり、令和元年度の譲渡数は1262頭で過去最多となりました。

令和元年度の猫の致死処分は637頭であり、残念ながら保護した猫の33.5%を処分していることとなります。猫の致死処分を減らすためには、収容数を減らすことが重要です。

のら猫の増加、 実は上越でも身近な問題です

最近では、のら猫に餌だけを与えず不妊去勢手術を行わないで飼育しているうちに繁殖を繰り返し、あっといふ間に手に負えない数が増え、1人で数十頭の猫を引き取りに出す「多頭飼育崩壊」が問題になっています。

近年テレビのニュースなどでも取り上げられるようになりましたが、市内でも発生しており、市としても課題として捉えています。

県や県内の動物愛護団体では、特定の飼い主はいないものの、地域の合意が得られていない上で地域住民の協同により飼育管理されている猫(地域猫)の不妊去勢手術の助成を行っています。

猫の繁殖を抑制して現状より増えないようにすることが重要ですが、金銭面で大きな負担となるため、不妊去勢手術の助成により、地域猫の繁殖を抑制し、致死処分になる猫や地域猫による人への被害を減らす取り組みを行っています。

お話を伺った人 上越動物保護管理センター (担当 諏合さん)



県では、保護される猫を増やさない、処分される動物を少なくするためにできるだけ譲渡をするように活動しています。

当センターでは、犬や猫の保護、譲渡などを行っており、昨年度は、上越市で2回の譲渡会を開催しました。飼い主のいない猫の不妊去勢手術の助成の申請受付も行って、今年度も予算がつかしましたので、希望される方はお申し込みください。

最後まで飼うことができるかしっかり考えた上、飼う場合は「繁殖制限」「完全室内飼育」「所有者明示」に努めてください。

動物を飼うときは、責任を持って最後までお世話をしてください。

▶問合せ…上越動物保護管理センター (中正善寺、☎025-525-9263)

しっぽのなかま上越で保護されている子猫たち

活動で大変なことはありますか？

私たちは、「猫が好き」という思いで活動しているボランティアですが、「好き」という気持ちだけでは限界があります。譲渡の作業や譲渡会の準備など人手が足りず、いっぱいいっぱいなときもあります。でも、保護猫が減らない限りは、私たちも譲渡会を開かなければいけません。

保護猫を減らすためには、啓発活動が大切です。新聞の記事でお知らせしたり、小学校に話に行ったりしています。今後も啓発活動に力を入れていきたいです。

市民の皆さんに伝えたいことはありますか？

多頭飼育崩壊や高齢者のペットの問題など、ニュースで見るとは意外と身近にある問題です。「かわいい」という衝動で飼わずに、飼育にかかる費用、猫の寿命が20年以上あること、自分以外の後見人がいるか、災害時の避難をどうするかなど、「飼いたい」という気持ちだけでは飼えないことをよく考えて欲しいと思います。



しっぽのなかま上越
ホームページ

「しっぽのなかま上越」さんにお話を聞きました



しっぽのなかま上越で保護されている猫の「じゅん」

「しっぽのなかま上越」は、動物との共存共栄を目的に、犬や猫の相談や保護、啓発活動、イベントや譲渡会でのチャリティ物販などの活動をしています。12月20日にリージョンプラザ上越で行われた譲渡会でお話を聞きました。

どんな相談がありますか？

最近、ひとり暮らしで亡くなった高齢者の方のペットの相談が多いです。身内の方も飼うことができない場合に来られますね。また、ニュースでも取り上げられる多頭飼育崩壊の相談も年に1~2件あります。多頭飼育崩壊の現場は糞尿の臭いで目も開けられない状況になっていることも。

相談の中で、どうしても飼えない、飼う人が見つからない場合に保護を行います。相談者の方に猫の医療費などを負担してもらい、一時預かりボランティアが猫の世話をします。

保護した猫はどうなるんですか？

譲渡会を月1~2回開催しています。条件に合う人がいれば譲渡となりますが、人に慣れている猫ばかりではないので難しいですね。トライアル期間を設けているので、実際に飼ってみて大変だと分かることもあります。

年間の譲渡数を教えてください

年間の譲渡数は100頭程度です。譲渡会で月10数名に譲渡していますが、保護猫は常に50頭程いるのが現状です。保護する猫が減らないのでなかなか厳しい状況です。

「実は猫アレルギーなんです」と話す黒坂さん



しっぽのなかま上越の黒坂さん

PICK UP! 猫に関するクラフト作品販売などのチャリティイベント「猫フェス@上越」



「猫フェス@上越」実行委員会により、出店料や協賛金を寄付する猫のためのチャリティイベントとして、平成31年2月に第1回「猫フェス@上越」が開催されました。

昨年12月13日の第3回では、新型コロナウイルスの影響により、感染対策、規模を縮小しての開催となりましたが、多くの方が訪れました。

また、同会場でしっぽのなかま上越さんによる、猫の譲渡会も同時開催されました。

スタッフは全員ボランティアで活動している猫好きによる猫のためのイベントです。

今どきの猫の飼育事情から地域猫を考える

完全室内飼育、不妊去勢手術をする、首輪に迷子札・マイクロチップは県が推奨する「猫を飼う場合のルール」です。

のら猫にエサを与えている人も、家族の一員として猫と暮らしている人も、飼い主と同様に猫の管理者としての責任があります。猫が悪者にされないためにも、エサを与えるならば、時間を決め、食べ終わったら片付けるなどのルールを決めた上でエサを与える。また、トイレを設置して糞尿の被害が出ないように管理する必要があります。子猫が増えないように手術し、頭数の管理も必要です。

また、のら猫は寒さや交通事故、病気のため寿命は3年程とされています。助成金を使って増えないように管理し、1代限りの命を地域で見守る「地域猫」活動が行われている地域もあります。

ひとつの命について考えてみませんか。



県ホームページ
「今どきの猫の飼い方」